



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所
 財団法人日本臨床衛生検査技師会
 発行責任者 小崎繁昭
 編集責任者 蒲池正次、小郷正剛、下田勝二、
 山城元俊、及川雅寛、谷口薫、
 高田敦也
 〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
 TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
 ホームページ <http://www.jamt.or.jp>



2010 年年頭挨拶

新年明けましておめでとうございます



会員の皆様には、ご家族共々輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

役員と共に取組んで参りました会務も、会員の皆様の温かいご支援とご協力をいただき、予定された事業計画を着実に執行できましたことに対し、衷心から厚くお礼申し上げます。

特に当会先輩諸氏の尽力で立ち上げた、第 3 回 AAMLS 学会を昨年 7 月下旬に神奈川県横浜市のパシフィコ横浜を主会場に開催し、アセアン、アジア各国からも賞賛されたことは自信に結びつき、会員の国際的な活動と飛躍の一助になったものと思っております。

さて、昨年度の当会最重要課題の一つである公益社団法人組織改革については、委員会を組織して、定款、諸規程の検討を行っていると同時に、民間コンサルタント会社と契約を結び、当会の各種事業について詳細な分析と公益性、共益性の分析をお願いしているところであります。

その結果を参考にして医療関連団体の情報を勘案して、将来あるべき日臨技組織体制の整備と定款の見直しを進め、公益社団法人か、一般社団法人への結論を出して参る所存です。

ここ数年、当会は各都道府県技師会の協力を得て国民のための公益活動を主体に、事業の見直しを行うと同時に、健康祭りやエイズ撲滅運動、世界糖尿病デー、マタニティビクス協会等を協力し、国民から臨床検査と臨床検査技師が見える運動をして参りましたが、対費用効果を勘案すると共に事業の総括をして、十分な成果が得られるよう今年度も引き続き進めてまいりたいと考えています。

懸案である、臨床検査標準化 3 ヶ年事業も平成 21 年 3 月で予定された 3 年を終えましたが、これまで積み重ねた多くの経験と会員のボランティア活動を生かすため、今後の標準化事業を進める上で問題点を整理し、より質の高く精度の良い検査データを提供するための新たなスタートラインに立つ年になります。

今後も日本臨床衛生検査技師会が責任ある組織として検査データが標準化された手法、管理の下で、生涯にわたって利用できる検査データを報告する検査体制を整え、全国の会員と組織が目指す高い理想に向かって、更なる飛躍する年になることを期待しています。

昨年 9 月に 50 年間続いた自民党政権から民主党に政権交代が行われ、今後の医療行政、診療報酬点数改正など医療関係者にとっては気になる平成 22 年の幕開けになります。話題になった事業仕分けは、無駄な事業の見直しを国民目線で判断するものとして、多くに国民から共感を得たようです。

当会においても限られた予算を適正かつ有効に利用するためには、各種事業の見直し、組織改変等将来にわたって広く活動できる盤石な組織と基盤整備を欠かすことができません。皆様の温かいご支援とご協力を切にお願い申し上げます。

本年も会員の皆様には、ご家族の健康と益々のご繁栄を祈念申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。

平成 22 年 1 月 1 日

社団法人 日本臨床衛生検査技師会

小崎 繁 昭